

**【土岐市病院事業の「再編・ネットワーク化」「経営形態の見直し」に関する具体的な方向性(案)】
に係るパブリックコメントの実施結果について**

1. 募集期間: 平成30年10月5日(金)～ 10月26日(金) 22日間

2. 閲覧場所:

市役所総合政策課、各支所、保健センター、土岐市立総合病院及び駄知診療所、市ホームページ

3. 意見を提出できる方(意見提出者区分):

- 1) 市内に在住の方、2) 市内に在勤の方、3) 市内に在学の方、
- 4) 市内に事務所又は事業所を有する方、5) 当該案件に利害関係を有する方

4. 意見の提出方法:

- (1) 市ホームページのご意見提出フォームにて提出
- (2) 所定の様式に必要事項をご記入の上、以下の方法で提出
 - 1) 市役所総合政策課へ持参又は郵送
 - 2) 市役所各支所、保健センター、土岐市立総合病院及び駄知診療所備え付けの提出箱に投函
 - 3) メール
 - 4) ファックス

5. いただいたご意見の総数: 126名

【いただいたご意見の概要】

- 民間の経営では、採算性を重視するあまり、不採算医療の切り捨てが行われる可能性がある。厚生連への指定管理化は、サービスの低下につながるのではないかな。
- 病床削減は国の施策方針。必ずしも国の考え方に沿った検討をすすめるのではなく、市独自で市民のための医療を実現すべきではないかな。
- 市は、医療需要に即した医療供給体制の提示と、実現するためのビジョン(あるべき姿)を示すべきである。
- 市は、市立病院を守るためにどれだけの経営改善努力をしてきたのか。医師不足というが、医師確保のための努力が足りないのではないかな。
- 土岐市立総合病院を黒字化する方法、利用患者を増やす方法は、まだまだあるのではないかな。
- 土岐市立総合病院は、市民の命を守る大切な病院である。なくしてはいけない。
- 土岐市立総合病院には、すばらしい医師・スタッフがたくさんいる。なくしてはいけない。
- 土岐市立総合病院は、市民の大切な財産である。なくしてはいけない。
- 土岐市立総合病院は、市民の命を守る大切な病院である。たとえ赤字であろうとも、直営で病院を維持していくべきではないかな。
- 土岐市立総合病院は、指定管理に出すべきではない。これまで通り直営で運営すべきである。
- 土岐市立総合病院が、近くの慣れた場所にあることは重要。なくしてはいけない。
- 土岐市立総合病院は、高度医療だけでなく、体調が悪い時に安心してかかることのできる親身になって対応してくれる病院でありつづけてほしい。
- 高齢者は特に移動手段の確保が難しく、土岐市立総合病院がなくなると通院ができなくなる。高齢者が安心して暮らすためにもなくしてはいけない。
- 土岐市立総合病院は、地域で安心して暮らすために必要な病院。なくしてはいけない。
- 指定管理先が厚生連ありきであることはおかしいのではないかな。公募すべきではないかな。
- 一度指定管理に出すと元に戻ることはできない。指定管理化には、万が一不都合なことが生じた際に容易に契約の変更が利かないことや、意見や要望が伝わりにくくなるなどのリスクがあるのでは。
- 市は、総合病院の現状課題、指定管理化の議論等について、もっと市民に情報を開示し、積極的に説明を行うべきではないかな。
- 市民参加型の話し合いの場を設けて、市と市民が協働で病院問題の議論と検討を行ってはどうかな。
- 専門家の意見だけでなく、直接市民の声を聞く機会を設けて反映させる必要があるのではないかな。
- 指定管理化を結論付けるためには、もう少し議論をしたほうがよいのではないかな。
- 市(市長)、病院、議会、医師会が、市民のために良い医療を提供するよう、市民のほうを向いて主体的に協力していくべきではないかな。
- 統合再編は必要。地域医療を守るための時間は残されていないのではないかな。
- 土岐市立総合病院は、地域医療提供の場であると同時に雇用のある場でもある。病院がなくなると、居住人口にも労働人口にも影響があるのではないかな。

<いただいたご意見>

1

民間の経営では、採算性を重視するあまり、不採算医療の切り捨てが行われる可能性がある。
厚生連への指定管理化は、サービスの低下につながるのではないか。

<主なご意見>

- ・ 東濃厚生病院は患者を選別する。救急当番でも救急車を断る等決してよい医療を提供してくれているとは思えない。
- ・ 厚生連の傘下になれば、利益にならない患者は医療を受けることができなくなる。
- ・ 東濃厚生側あるいは瑞浪市が土岐市側に歩み寄る必要があると思います。
- ・ JA管理化となり儲けを意識しすぎた経営になれば、患者を選別することになり市民にとってマイナスではないか。
- ・ 儲けに特化した医療はある意味恐ろしい。
- ・ 民間の医療機関には市民の命と健康を守る責務はない。採算こそが命。
- ・ 民間で維持が可能というなら、それは不採算部門や人材切り捨ての発想でしかない。
- ・ 民間病院では、不採算部門を切り捨てることも考えられ、サービスの低下にもつながる。
- ・ 民間の経営になると、市民の声が届かなくなる。直営であれば、市長・議会に声を届けることができる。
- ・ 土岐総合病院に親が入院していた時は、看護師さん達に非常によくしてもらって、不満はなかったが、合併しようとしている病院に救急車で運ばれ、親が入院した時は、介護のレベルが低いと感じた。そのような病院とは合併してほしくない。
- ・ 市民が平等に医療を提供されなくなることが分かり切っていますが、市長さんや市のお偉いさん方はそれを理解しているのでしょうか。
- ・ 指定管理になると、利益追求となり、弱者が切り捨てられることになってしまうと思う。
- ・ 高齢化社会は悪くない。弱い人、高齢者は医療が必要。医療機械が整った病院を投げ出さないでください。指定管理が増えています。責任が薄くなっています。

＜いただいたご意見＞

2

病床削減は国の施策方針。必ずしも国の考え方に沿った検討をすすめるのではなく、市独自で市民のための医療を実現すべきではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 国や県の言いなりではないですか。市民の生命を守る気概を示して欲しい。
- ・ 2025年に向けて進展する高齢化社会への待ったなしの対応が検討されるべきであるにもかかわらず、国の医療費削減政策に沿った検討がなされていることは、土岐市民にとって不幸である。
- ・ 市は、憲法第25条に定める社会保障の充実を図るため、国の施策の転換を求めるとともに、住民福祉の増進のための行政を自主的かつ総合的に実施する役割を果たすべきである。
- ・ 国は、病床削減を進めようとしているようですが、住民の命と健康を守る社会保障を受ける権利は守られるべきです。「統合すれば医師が多くなり、医療機能が充実できる」と実施した静岡県富士宮市では、充実どころか縮小され、統合してよかったことをあげる方が難しいとのこと。国の押し付けに負けないで、土岐市民の命を守ってください。
- ・ 特別交付税について調べていて気付いたのですが、時限付きで、とにかくなんでもいいから「公立病院改革の推進について」(平成27年3月31日総務省準公営企業室第59号通知)にそった公立病院改革プランを立てて公表すると、経費として上限数百万円の特別交付税がもらえる、というボーナスが存在するみたいです。これは「国のちゃん持ちになっってください」と言っているようなものですが、もっとよく調べる必要があるものの、パブリックコメントの提出期限に間に合わないの、調べてもらえませんが、もしかして土岐市はこれに釣られたのでは？最近いろいろな市営、県営施設が廃止されているところを見ると、地方交付税の算定変更で自治体はすごく影響を受けてるんだな、と思いました。
- ・ 国の社会保障費削減、人口減を見据え、すでに全国的な医師不足は進み、また、公営病院の民営化は進んでいる。県はこれを受け瑞浪、土岐の一病院化をすることとし、JA厚生連がこれにのっかり、傘下にある瑞浪厚生が土岐市長に働きかけた。スケジュールは決定していた。名大は医師を医局に引き上げ医師不足とし、赤字を抱える市病院を一病院化で400床とし民営化することで県も又、保障費削減。厚生連は事業収益を望める分野として参入。
- ・ もっと市民の意見を聞いて、国のいいなりにしないでください。
- ・ この度、瑞浪東濃厚生病院へ経営を任せる、まかせ吸収合併させられることを知り、安倍政権の意図的な政策に組み込まれてしまったことに怒りと悲しみがわいています。
- ・ 政府は社会保障費を抑制するとして、在宅医療・在宅看護を推進し、病院のベッド数を減らそうとしていますが、国民の生活実態や要望と大きく乖離しています。
- ・ 市長は市議会とともに政府に対して社会保障予算を大幅に増やし、住民の命と健康を守る自治体の努力を支援するようにと声を大にして要求してください。
- ・ 地方の公立病院の医師不足は全国的であり、医師不足・偏在の原因は国の医療社会保障政策にあることは明らか。
- ・ 他府県に比べて岐阜県の医師数が少なく、さらに東濃では一層少ないにもかかわらず何の手立てもしてこなかった県政にも責任の一端があります。医師不足への支援を求める相手は県であり国であって民間医療機関ではありません。
- ・ 病床削減は国の政策で、これから高齢化や災害で入院患者が急増した時ベッドを削減して困るのは市民ではないか。
- ・ 消費税の増税で社会保障に充てると言っているが、5%8%になっても全然良くない。
- ・ 市民のための医療や介護ができるように、国や県、市の税金の使い方を福祉・医療・教育に充てるべき。
- ・ 根本的に国の財政はおかしい。軍事費にかかる予算のいくばくかがあれば、かなり福祉に回せると思う。これは一市町村の能力、努力では無理な事態である。
- ・ ベッド数が減り医療難民となり、在宅医療を受けざるを得なくなると、家族の限度を超えた介護の負担、孤独死等が増え、社会問題にもなっている悲惨な状態が急増することが予想されます。
- ・ 社会保障削減、自治体病院を減の政策が公平でない「人の命を守る」憲法にある。こまっている人のための法律が憲法だ。それが社会保障の根幹だ。
- ・ 「再編統合」は国のガイドラインに基づいてはじめられたもので市は国の社会保障切り捨ての政策に従うべきではなく、必要ではありません。
- ・ 国の政策と反することになるかも知れませんが国の政策が「一番」ではありません。「生きている生身の市民」を思考の根底に据えてください。
- ・ 国が自宅介護の方針を打ち出している現状では若い層に？介護も大きな負担となる。子供や親世代そして若い世代だって病むことはある。
- ・ 創立時の市民に責任を持つ医療を続けて下さい。市立総合病院の方が安心できます。国や県の方針に負けないで自治体のよき面、心がかよう姿勢をお願いします。

＜いただいたご意見＞

3

市は、医療需要に即した医療供給体制の提示と、実現するためのビジョン（あるべき姿）を示すべきである。

＜主なご意見＞

- ・ 早く経営統合した時のあるべき姿を提示してもらいたい。
- ・ 総合病院を高齢化社会に見合った具体的将来構想を市民参加でつくり医師の配置を要求して下さい。
- ・ 近い将来必要とされる医療需要を把握し、それに即した供給体制の提示と、それを実現するためのビジョンを示すことが、土岐市の責務である。

＜いただいたご意見＞

4

市は、市立病院を守るためにどれだけの経営改善努力をしてきたのか。
医師不足というが、医師確保のための努力が足りないのではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 病院の赤字を今までぶっていたのは、市長、市議員に大きな責任がある。
- ・ 経営者である市は何をしていたか？
- ・ 市の職員はもっと努力してほしい。給料の見直しも必要では？民間並みに下げれば経費が節減できるのでは。
- ・ 赤字になるのは優秀な医師確保に市長を始め市議会の努力が足りない事を自覚すべきです。
- ・ 合併に反対です。理由は、経営改善の努力をしているようには見えないため。
- ・ 大変なこととは思いますが、市民のためあらゆる面で見直し、健全な運営ができるよう努力してほしいです。
- ・ 「医師の確保が困難」とか「経営が赤字」などが理由とされています。病院の経営に努力の余地があるのでは。
- ・ まだまだ単体でがんばれることがあるのではないのでしょうか。
- ・ 医師不足解消の為、市はどれだけの切迫感をもって努力したのでしょうか？
- ・ 市外、県外からも来てると思われます。そういう病院を視察されたりしたのでしょうか？医師の確保が出来ないとも聞きましたが、市長が行ってもダメだろうから・・・と聞きました。実際に行かれてないようですが？それでダメなら、市民を中心に署名を集めたりという努力をすべきではないのでしょうか？1回行ってダメなら、又行く、更に行く・・・この繰り返しは必要だと思います。
- ・ 赤字だと言って逃げてはいけません。公設公営の総合病院 黒字分をどう使うか？わけのわからない視察旅行は如何なものか。誇りを持って働ける職員のいる場＝若者も安心して利用。市議員の皆さん。指定管理、公設公営の意味するものを深く考慮してほしい。
- ・ 経営統合すると土岐市にはどれだけのメリットがあるのですか？医師不足と言われますがその解消のため、市はどれだけの切迫感をもって医師獲得に努力されてきたのでしょうか？
- ・ 市長あなたは公約違反です！市民病院を守ると選挙の時に言われたのではないですか？市民の意見を聞く！！とは形ばかりでわざわざパソコンから出して意見を言わなければ しかも記名で答弁のためにだけとしか思われませんか！！もう自分の気持ちは決まり切っているのでは？もっと市民の側に立った政治をしてください。せっかく市民のための病院があるのですから医師確保にもっと力を入れて下さい。
- ・ 市長は何を考えて東濃厚生病院に経営を任せようとしているのですか！！私は怒りでいっぱいです！！私77歳、夫79歳。病院(総合)通いが多くなりました。私は自動車に乗れません。2年前夫が入院(2カ月)した時、バスに乗って毎日通いました。医者も看護師もとても良くて満足しました。市長、あなた一人の病院ではありません！絶対許しませんよ！！市長、あなたは市民病院を守る！と公約して選挙に立ったのではないですか！私は覚えていますよ。
- ・ 市長さんの公約でしたよね。医者がいない、それだけでサジを投げてよいのですか。「京大から連れてくる。」「総合病院存続を守る。」を信じています。
- ・ 市長は存続の公約を守れなければ退陣していただく・新市長に期待する。
- ・ 総合病院は、市民の命を守る大切な病院。赤字は当然、直営の病院を守ることは市長としての公約。
- ・ 不十分ながら医師が集まり、黒字であった年度がありました。よくしようという病院の意気を全く感じず、合併にいそしみ、働き甲斐のない病院を作り上げたという点で、市の執行部の責任は重いと考えます。このような態度でいれば、今後も医師の離職は進むでしょう。
- ・ 国の言いなりになっていたら市民の命と健康は守れません。市長、あなたは市民病院を守ると公約して選挙に立ったのではないですか！
- ・ 市長は「公約を守る」だけでなく市民の命と健康を守る責務を全うするという確固とした信念のもとで市立総合病院の市直営を堅持して、他市の「百人委員会」などの例に学び、広く市民の意見や知恵を結集して問題を一つ一つ解決していく努力を惜しまないでいただきたい。
- ・ かつて議会質問で、総合病院の先生方が次々独立しても市民不安に「大丈夫か」との問いに、市側の答弁は、「市民は個人医を持つことが必要。個人医から総合への紹介があるごとに国から補助金があるから、財政は問題ない。」との回答だった。その経過と結果はどうなったか。総合病院は必死に守る姿勢を示すべきではないのでしょうか。
- ・ 市長は、「総合病院の存続は求めている、土岐瑞浪の医療体制確保を考えている。病院は土岐市になくても構わない」と述べています。そんな大切なこと、市民の一大事を市長1人が決定することに驚きます。利害関係の当事者は市民なのに、利害関係が及ぶ土岐市、瑞浪市、厚生連と述べてしまう、市民感覚の欠如にも驚かされました。
- ・ 現土岐市長は、少子高齢化社会、人口減少社会の到来により現病院は規模が大きすぎるから最終的には土岐・瑞浪との一病院化が望ましいと発言されています。市民の命を預かる首長として軽い発言ではないか、その影響が職員に反映していないか？
- ・ 市長の発言では、病院の存続は求めている。地域の医療体制を確保することが大切という言葉があったことは先に言及しましたが、ほかに市長の言葉のなかには、医療体制については、二次救急、高度医療という言葉は何度もありましたが、その他機能については言及がありませんでした。がん治療、ターミナルケア、在宅医療、開業医では難しい慢性疾患の治療、難しい疾患の正確な診断等も重要な病院の医療機能です。
- ・ 総合病院には、空きベッドがあるはず。入院すべき患者がそのベッドをなぜ、利用できないのかと思うことがある。
- ・ 私は、市当局が病院経営に関心を持たなかったことも、赤字経営の一因であると考えています。改革を病院とともに考えていただきたいと思います。

＜いただいたご意見＞

5

土岐市立総合病院を黒字化する方法、利用患者を増やす方法は、まだまだあるのではないかな。

＜主なご意見＞

- ・ 黒字にするには、いろいろな方法がある。土岐市には大きな企業があるから、少しでも援助を頼み、市民も協力する。
- ・ まだまだ黒字化する方法はいくらでもある。
- ・ 現場で状況を把握している市内医師会・看護師との面談で相互の想いを調整し新たに土岐市としての土岐市病院の独自公社化を目指してほしい。
- ・ 市内の患者疾病加療の割合をデータ検索し、病院の特定疾患の治療に専心すべきと想う。治療科目を何処に選別するが一番の課題。
- ・ 赤字経営続きとのことですが、過日、黒字経営の時もあったと思います。今一度落ちついて改善策を見つけ直していただきたいと思います。今さらと思うのではなく、今からすぐやると行動を開始していただきたいと懇願いたします。
- ・ 土岐市総合病院を受診していれば、院内におけるカルテの統合化は、行われています。これを、市全体の医療機関及び市民に行います。これこそが、土岐市の医療体制のネットワーク化の大前提だと考えています。もちろん、瑞浪市と瑞浪市民と同様の連携も、図るべきことです。
- ・ 土岐市、瑞浪市、土岐市総合病院、東濃厚生病院(JA岐阜厚生連)さらには、医師派遣大学では、不十分。地域の医院、及び、患者である市民も加えるべきと考えます。
- ・ 人口が増えない、減少する中、土岐市総合病院から、総合医療院になるのが理想的と考えています。治療を合理化するためにも、病名が、より直ちに確定されることがポイントです。
- ・ 診断の確定後は、スムーズに治療へと進めます。入院が必要なのか、地域の医院への通院で治療すれば良いのかなどを方向性を示すまで行います。地域の医院で診断の確定ができない場合は、検査システムが充実している土岐市総合医療院へ回す逆のパターンも、当然あります。
- ・ 入院単価41,000円は低すぎる。
- ・ 病床が多いのであれば、縮小、特別な科をへらしても赤字でも存続させるのは、産婦人科程度で、他は採算で考慮してもよいのでは。
- ・ 年をとっての通院はつらいです。もっと、公共交通機関が利用できやすくなるよう働きかけてください。
- ・ 市民病院の外来患者さんを増やすことを職員と議員さんに願います。
- ・ 内部職員の異動をやめて、消防署のように専門職にしてほしい。(事務職)
- ・ 無理に今の病床を維持したり、総合病院を維持しなくてもよいのでは。看護基準も見直したりできるのでは。
- ・ 市の規模が違おうとしても、大垣市民病院は新たな病院が出来ても患者を確保できています。色々聞きますが、人の命を第一に考えるという事が抜けてる気がしてなりません。総合病院には最新の設備もあると聞きました。すぐに立て直せるとは思いますが、親切丁寧な対応の出来る病院を作り上げていけば、評判となるはずです。市民との意見交換の場をもっと増やしてください。
- ・ 土岐市総合病院が備えている検査システムを地域医院も利用できるようにすること。総合病院の検査システムの稼働率を上げながら、効率化することが期待できます。地域の医院も診断を迅速化、確実化することになります。
- ・ 地域診療所の入院患者の請負。以前、多くの医院では、入院もできました。現在、入院できる場所は、少なくなったように思います。その結果、入院すべき患者が、自宅療養になってしまっているのではないかと思います。総合病院に患者を預けた医師は、毎日、往診します。その時、総合病院の医師と看護師との連携が必要であり、交流をすることになります。そのことが、自動的にネットワークの強化、また総合医の養成にもなっていくのではないかと思います。
- ・ ちなみに名古屋市では公立で“無料で病院送迎をする”バスがあります。市民病院も検討されてはいかがでしょうか？ 足が確保されれば皆さんもっと利用しませんか？
- ・ 公共サービスの質の低下を招かず、労働者の雇用を守り、地域の衰退を回避すること等を考慮すれば、「東濃圏域の地域医療構想を見直し、東濃西部3市(多治見、土岐、瑞浪)の急性期を多治見市民病院、JA東濃厚生病院が担うこととし、現在の土岐市立総合病院を地方独立行政法人岐阜県立多治見病院に統合し、そのサテライト病院として主に回復期を担う病院とする。」ことも考えられると思います。このようなことも検討されたのでしょうか？もし、検討されていないのであれば検討していただけないでしょうか？
- ・ 土岐市、瑞浪市、土岐市総合病院、東濃厚生病院(JA岐阜厚生連)と、地元の医院の有志団体とで、いわゆる第三セクターのような組織に、市民を加えた形にします。地元の医院については、望ましいのは全員参加ですが、例えば有志が集まった組合のような組織での参加も考えられます。このような組織の形は、誰が最終責任を取るのか曖昧になりがちです。そこで、私は、原則、市民とします。市民に責任を負わせる、市民が責任を取る形です。市民の自分の命は自分自身が守るという自覚無しには、本当の実効性のある医療ネットワークは、この地域に実現しないと思うからです。もちろん、市行政は、市民が自覚するよう当面、手助けをしなくてはなりません。他の市に同じような例があるかどうか、知るところではありません。なければ、先達となる意気込みで、ぜひ、トライしていただきたいと願います。
- ・ それぞれの足りないところを補うのではなく、それぞれの長所で、連携するというスタンスで、ぜひ、検討していただきたいと願っています。土岐市と瑞浪市のすべての医師が、ネットワークすることになれば、この地域で医師不足ということがあるでしょうか。現在のままで、地域に密着した大病院が生まれると想像できませんか。カルテの統合化においては、個人情報流出、悪用ということが懸念されます。一方、市で市民全員の健康を把握することは、医療面におけるビッグデータを得ることになり、役立つはずです。運用面においても、市政への少なくともないメリットも考えられます。総合病院においては、同時進行で、総合医療院へ移行するよう模索されることを期待します。

＜いただいたご意見＞

6

土岐市立総合病院は、市民の命を守る大切な病院である。なくしてはいけない。

＜主なご意見＞

- ・ 総合病院は、市民の命を守る大切な病院です。東濃厚生病院に合併されることは反対です。
- ・ 安心して、自分の生命を託すことができる病院を市民は望んでいるのです。土岐市民の為の、土岐市民の知恵と希望をかなえる公立の病院は絶対に必要です。
- ・ 土岐市民の大切な健康と命を守るたった1つの総合的な公的病院で、安心して高度な検査・治療を市民が受診できる大切な病院をなくすことは許されない。
- ・ 市民の命は地域で守る。総合病院をなくさないで！！
- ・ 土岐市総合病院は私達市民の命綱です。絶対に残すよう、その為に私達市民にも出来ることがあれば伝えて下さい。
- ・ 市民の命を守る公立病院の存在はとても重要です。市の責任において存続させるべし。
- ・ 土岐市民病院は絶対になくさないでください。「家中でどうしたらよいか」と話し合っています。市長さんお願いします。私たちの命綱です。市民病院を守ってください。
- ・ 市民の命を守るためです。年齢的にも土岐市にないと困ります。
- ・ 私は、一市民として「総合病院のあり方を問う意見募集」に関して行政が推進しようとしている計画に自分なりに考え方を伝え、「地方自治は民主主義の学校である」といった政治家の名言に習って、日ごろ、土岐市の行政に着目しているわけではないが、「総合病院は市民の命を守る大切な病院」です。
- ・ 市民は、市立病院の開設以来永きに渉り維持管理のための経済的負担を受け入れ、命を守る拠り所としてきました。その改革は市庁舎の建て替えなどとは比べものにならない重要な事柄であることを深く理解していただきたい。
- ・ 市民の命を守る土岐市総合病院の存続を強く希望する。
- ・ 市民の命を守る病院です。必ず残してください。
- ・ 市民の病院が地元を離れることは大変なことだと思います。近くで市民の命を守ってほしいと思っています。

<いただいたご意見>

7

土岐市立総合病院には、素晴らしい医師・スタッフがたくさんいる。なくしてはいけない。

<主なご意見>

- ・ 私は肝臓が悪く、恵那の保健婦さんに紹介されて藤本正夫先生に診ていただいています。藤本先生は、肝臓の専門医として恵那のほうでも有名で、なくてはならない方です。先生には、基本的な検査から必要な検査をしていただいて、治療を始めてくださり、ありがたく感謝しております。次回の予約をとる時も、介護の必要な家族のことも考慮して下さるので、安心して受診を続けることができます。この病院が、このまま存続できるよう祈っています。
- ・ 川喜田先生のお世話になってもう数十年。今通常生活ができ元気が持てるのも、先生がおみえになるおかげと思っています。私の命のつなぎ場所。ぜひ存続願いたいです。家族皆存続を願っています。
- ・ 土岐市に住んで52年。4年前に主人は難病指定されました。見つけてくれた先生は、市民病院の先生です。総合的に見てもらえることが大切と感じます。他にも素晴らしい先生方ばかりです。

＜いただいたご意見＞

8

土岐市立総合病院は、市民の大切な財産である。なくしてはいけない。

＜主なご意見＞

- ・ 土岐市立総合病院は、市民の大切な財産であり、市民の命を守る大切な病院です。
- ・ 土岐総合病院は私達市民の健康を守るトリデです。財産です。どうか市長様にお願いします。守ってください。
- ・ 市民である我々の市民税を投与している大切な財産である。絶対に存続すること。
- ・ 市立病院は市の財産です。直営のまま市民みんなでいつまでも大切に利用したいと思います。
- ・ 総合病院は市民の大切な財産です。簡単に処分しないでください。
- ・ 総合病院は市民の命を守る大切な大切な病院です。
- ・ 総合病院は市民の大切な財産です。簡単に処分しないでください。
- ・ 総合病院は市民の命を守る大切な病院です。総合病院を東濃厚生病院へ経営を任せることに反対します。総合病院は市民の大切な財産です。簡単に身売りするなどの処分をしないでください。
- ・ 東濃厚生病院を土岐総合病院に吸収することで土岐総合病院を存続させる（治療する為に、環境が良く敷地も広い）。病院の機能について、すべての面で、土岐総合病院の方がすぐれている。

＜いただいたご意見＞

9

土岐市立総合病院は、市民の命を守る大切な病院である。たとえ赤字であろうとも、直営で病院を維持していくべきではないか。

＜主なご意見＞

- ・ たとえ赤字であっても、市民のための公立病院であるという位置づけを維持し、直営の経営を存続させてください。
- ・ 市立病院は、赤字(覚悟)で市民の命を守ってきたと思う。黒字ならベストだが、命を救うのに赤字は仕方がない部分もあるのではないかな。
- ・ 無駄をなくし、節約はすべきだと思いますが、赤字覚悟の市民病院は必要なのではないでしょうか。
- ・ 警察も消防も人の命を守る仕事と儲けは別物ではないか。無駄は無くすべきだが安心安全にはお金がかかるもの。
- ・ 今一度収支を見直し現状維持を求めます。市民の健康のための税金投入はやむを得ません。
- ・ 赤字でいいのです。大切な市民の命を守る病院です。なくしてはなりません。
- ・ 放漫経営で決していない運営の中での赤字は必要不可欠の費用ではないのか。
- ・ 公立病院は、民間病院では難しい不採算部門を積極的に担う役割を求められていると思います。
- ・ 総合病院は市民の命と健康を守る市民の宝であり、財産です。たとえ赤字でも「名誉ある赤字」という人もいます。
- ・ 公的な病院は営利を目的するところではありません。赤字は市民の命を守るための必要経費です。
- ・ たとえ赤字でも、今のまま総合病院を残してください。
- ・ 市民が安心して利用できる総合病院を将来に渡って残すためには、財政的な負担を勘案したとしても、従前どおり、市による直営形態が望ましいと考えます。
- ・ 赤字だとしても、市民の命や健康を守るための公費(税金)支出なら、市民(特に弱者)も納得します。それこそ市政の役目だと思う。
- ・ 総合病院は市民の生命を守る大切な病院です。たとえ赤字でも直営の病院を維持してください。
- ・ 市民の命を守る大切な病院 赤字でも直営の病院を維持してください。
- ・ 総合病院は市民の生命を守る大切な病院。赤字でも直営の経営を維持してほしいです。
- ・ 総合病院は市民の命を守る大切な病院です。たとえ赤字でも直営の病院を維持をお願いします。
- ・ 総合病院は市民の命を守る大切な病院です。赤字でも必ず病院を維持してもらうよう努力してください。
- ・ 総合病院は市民の命を守る大切な病院なので赤字でも直営の病院を維持して頂きたいです。
- ・ 家に近くにある総合病院がなくなることは大変困ります。たとえ赤字でも直営の経営を維持して下さい。医師も積極的に探して下さい。
- ・ 公立病院は収益性に重きを置いて語られてはいけないうです。ぜひ「土岐市立総合病院」を存続してください。
- ・ 病院事業の赤字を減らす努力(医師の確保など)は当然であるが、市民の財産である直営病院を存続・充実するための市税による赤字補てんを多くの市民が納得するだろう。(17年度市全体の決算を見ても、実質収支16億円余りの黒字と承知している。)
- ・ お金と年寄の命はどちらが大切ですか。病床数を大幅に減らす再編・統合は年寄いじめではないか。反対します。

＜いただいたご意見＞

10

土岐市立総合病院は、指定管理に出すべきではない。これまで通り直営で運営すべきである。

＜主なご意見＞

- ・ 指定管理者の導入、東濃厚生病院との統合、1病院化に反対。総合病院は市直営のまま存続してください。
- ・ 現状の経営形態見直しには反対です。
- ・ 東濃厚生病院の指定管理に反対。
- ・ 他の病院に委託することはやめて！！公的病院土岐総合病院をして市民の命を守って命尽きる日まで心よりお願いいたします。
- ・ 総合病院は私達市民の大切な病院です。東濃厚生病院と吸収合併することは絶対に反対です。
- ・ 私たちにも出来る事がありましたら協力は惜しみません。市直営総合病院存続を願って止みません。
- ・ 土岐総合病院に東濃厚生が合併と云うならわかりますが、その反対だったら納得できません。
- ・ 総合病院は市民の大切な財産。それを今のまま続けて下さい。身売りなどしないで下さい。
- ・ 車に乗れないものにとって(今のところは運転できますが)土岐総合病院はとても重要なものです。他の病院と合併とかならないように土岐市民のために是非よろしく願います。
- ・ 医師不足や赤字経営を理由とした総合病院の「経営形態の見直し案」には反対します。
- ・ 命と健康を守る医療や福祉の将来ビジョンを打ち立てて、何としてでも公立病院を存続させてください。
- ・ 土岐市民の想いが反映し、経営にも意見が言える直営の病院の存続を求めます。
- ・ 総合病院は、土岐市直営のまま、存続してください。
- ・ 指定管理者制度の導入はやめてください。12月議会での条例化をしないでください。
- ・ 現状維持を希望する。開業医で時間外の救急の場合診てもらえないから、市内の総合病院にかかれるよう希望する。
- ・ 総合病院を今のまま土岐市直営の病院として続けて下さい。
- ・ 総合病院で手術をしていただいたりして、総合病院のファンです。指定管理制度の導入には反対です。ましてや1病院化は反対。
- ・ 総合病院を今のまま市直営で残してください。指定管理はやめてください。
- ・ 指定管理者制度はやめてほしい。
- ・ 経営手法としての指定管理制度という考えは全く理解に苦みます。
- ・ 総合病院を指定管理者の経営にしないで、市直営のまま充実させて下さい。
- ・ 総合病院は市民の大切な財産です。東濃厚生病院に吸収合併されることは反対です。
- ・ 今のまま、土岐市直営の経営を続けて下さい。
- ・ 東濃厚生病院に吸収合併はやめて下さい。土岐市直営の現行経営を！
- ・ 総合病院を今のまま土岐市直営の経営を続けて下さい。
- ・ 先日、台風25号がきた翌日はJRの計画運転のため、午前中電車が止まっていました。土岐市駅から多治見駅に行こうと思っても、直接土岐市駅と多治見駅をつなぐバスの路線がありません。高齢化が進めばバスの運転手のなり手不足も心配で、路線をすぐに増やすこと、バスの本数を増やすことは採算から考えても難しいと思われます。市民生活を守り、支える病院として公立の総合病院が続いて欲しいと考えています。
- ・ 総合病院を現在のまま、土岐市直営の経営を続けて下さい。いうまでもなく公立公的な病院には救急、小児、周産期、過疎地域の一般医療等、民営では難しい不採算な部門を積極的に担う役割が求められています。そうした役割を後退してはなりません。
- ・ 駅前道路拡張、駐車場増でも来客なしでサビレた街。→市民の命と健康を守る医療機関は近隣では負けない！という公設公営の総合病院再建の道を考えて欲しい。
- ・ 総合病院今のまま土岐市直営の経営を続けて下さい。
- ・ 行政として市民病院をまもること以上にすべき政策に何があるのでしょうか？市民の命の次に大切な市立総合病院を市直営で堅持してください。
- ・ 真ん中くらいに大きな土地で作られても、その費用は膨大になり、経営が苦しい企業がすることではないと思います。お互いの病院がそのまま残り、経営だけを連携していった方が良いのでは。
- ・ 今までどおり公立病院として残すように、市も努力することを望みます。
- ・ 何よりも地域の公的総合病院をなくさないでください。お金と年寄りの命はどちらが大切でしょうか。
- ・ 市民にとっては、病院は存続するかどうかが一番の関心事です。そこが不確定のままで、またカモフラージュして指定管理という事はまやかします。

＜いただいたご意見＞

11

土岐市立総合病院が、近くの慣れた場所にあることは重要。なくしてはいけない。

＜主なご意見＞

- ・ 立地条件の良い土岐市立総合病院には、今後も存続を切望します。
- ・ 自宅から距離的・時間的に短く健康を守るためには必要・不可欠である。
- ・ 近くに総合病院があるのは安心感があります。子供が病気をした時に近い場所に救急で入れないのは不安です。
- ・ 自宅から近くにあるので、現在のままであってほしいです。
- ・ 場所も通いやすく、急変の際に対応してもらいやすいです。財源があるならば、常勤の医師の確保をお願いします。
- ・ 近いということはとても大切なことです。病院は今のまま残していただきたいと思います。
- ・ 総合病院にかかっているものです。市内に近場に病院がなくなるのは困ります。
- ・ 「入院（検査も含め）は近いところで」というのは病人や家族にとって切実な声だと思います。
- ・ 今のままの総合病院を続けてほしい。売却、移転は反対です。家から近いし、自分の親を連れていくときも、慣れていてスムーズに事が進むため、とても便利。
- ・ 土岐市総合病院にかかっております。科目は血液内科です。会社（肥田）から近くとても便利です。病院がなくなると聞きましたが、理解が出来かねます。もう少し、患者の立場に立った行政を行っていただきたいと存じます。
- ・ 病院がだんだん遠くなる。かつて現在のセラトピアがある場所から現在の市立総合病院へ移設の際も、反対意見を押し切り、泉地区から遠い場所へ移りました。そしてまた東濃厚生病院との統合＝指定管理の導入、そして建替え、となれば、さらに物理的な距離だけでなく、心理的にも遠い病院になるでしょう。
- ・ 急病の際、大きな病院へとなった場合に、時間がかかり命にかかわります。現在の場所にある利点が大きく、生活するうえで安心が得られていますので、移転は望みません。

＜いただいたご意見＞

12

土岐市立総合病院は、高度医療だけでなく、体調が悪い時に安心してかかることのできる親身になって対応してくれる病院でありつづけてほしい。

＜主なご意見＞

- ・ 今後の希望。高度なんとかという、医者で紹介がなければ3千円・・・とかいう病院からはずしてもらい、普通の病院として、市民が病気になったときや、体調不良で心配な時。つまり、高度な診察が可能な装置で診てもらいたい時はいつでも行けるような病院になって欲しい。
- ・ 患者である我々だって、そんなに馬鹿じゃない。「ちょっと風邪ひいちゃったみたい。」という時はかかりつけ医に行くが、なんだか心配な時は大きな病院に行きたい。そんなときの受け皿になって欲しい。
- ・ 多くの市民にとって一番の希望は、近くで気軽に受診でき、親身になって対応してくれる、必要な場合はより高度な病院へ適切に紹介してくれるというところだと思います。
- ・ 市内に必ず高度医療病院を残して欲しい。
- ・ 大病院は、今後より大病院であることが求められます。気楽にかかれない、初診時は特定療養費がとられる、軽症者は診ない、慢性患者は診ない、早期退院、患者都合が利かない再診予約等、大病院の特徴は、市民の一大事には対処できても、日々の暮らしの中にある健康を考えるには不適合です。
- ・ 土岐市で産科を再開してほしい。
- ・ 特に曾木町など東濃地区は無医地区であり、一番近い病院が総合病院です。24時間体制の対応など考えて欲しいことが山積みです。
- ・ 土岐市内に総合的な病院が必要だと思う。普段は個人病院を利用する(時間的にも便利だから)が、検査をしたり、何か気になることがあるときは、医療機器のある総合病院を利用しますし、年寄りには、総合病院のほうが安心です。
- ・ 総合病院として開院された頃を思い出します。当時市民の総合的健康を担うにふさわしい近代的設備を整え市総合病院の開院となり私の子供達とともに人生に希望とファイトを与えてくれました。今では町医師の開院もあり、総合病院へは年数回しかありませんが、多くの市民が「安心して身体を託せる病院」が近くに必要です。

＜いただいたご意見＞

13

高齢者は特に移動手段の確保が難しく、土岐市立総合病院がなくなると通院ができなくなる。高齢者が安心して暮らすためにもなくしてはいけない。

＜主なご意見＞

- ・ 総合病院の科目が少なければ年寄は大変困る。
- ・ 年齢的に後期高齢者であり、遠い距離の所へ行くのが困難。是非近くに病院を残して欲しい。
- ・ 7月に背中を打ち、総合病院へタクシーで行きました。そしたら医師がいらないから東濃厚生病院へ行けと言われ、またタクシーで行きました。そこで入院をしました。私のような1人身の老人で遠い所の病院へ行くのは大変です。
- ・ 最近外科手術を必要とするけがをして、市内の医院から東濃厚生病院を紹介された。医療スタッフの質も高くありがたいが、我が家のように車を持たない者にとって、タクシー代がバカにならない。
- ・ 今後、高齢者が増え運転しなくなったケースが増えた時、まず同じ市内に総合病院があるという安心感は大切である。
- ・ 年を取って車に乗れなくなると、遠くまで行くのが大変になってくるので少しでも近くにあると助かります。
- ・ “病院を残して”という市民の声こそ守るべきです。“そろそろ免許返納”とかで老人が車に乗れる時間も限られている現状がある中、不便とはいえ、改善する余地があるとはいえ、交通の足が確保されている市民病院こそ守るべきです。
- ・ 老人等遠方へ通うことは、とても不便だと思う。
- ・ 総合病院は年寄りにとって大変大事です。なくさないようにしてほしいです。
- ・ 歳を重ねるごとに病院に通う回数も増え、大変です。市民の命を守る大切な病院です。無くさないでください。
- ・ 病床の低減なども検討されているとのこと、これから高齢化も進むと思われ全く逆行です。
- ・ 団塊世代が高齢化し要医療・要介護者が増加し、高齢者のみの世帯や単身の高齢者世帯が増加する状況下で市立総合病院の命と健康を守る拠点としての役割は減少することはありません。
- ・ 健康に不安を抱えている多くの高齢者、団塊世代の我々にとって、地域の公立病院は命と健康を守る砦です。
- ・ 市民の命を安心して委ねられる病院。ましてや高齢者、弱者にとって重要な場所でなければなりません。
- ・ 高齢者はもちろん、若いものにとっても市内に総合病院の必要性を思います。
- ・ 反対します。移転されると高齢の親のかかりつけが変わり、また対応も変わるので説明に困ります。
- ・ 「ゆりかごから墓場まで」の一生で、私たちは墓場へ入ってしまうまで、病院にお世話になっています。
- ・ 私の母の晩年の80代の10年間は、入退院の繰り返しであった。そのほとんどは土岐総合病院であり、かかりつけの医師とは顔なじみとなり、何でも相談できる雰囲気、付き添っている家族にも信頼感と安心感がありました。病状が急変、深刻な状態となっても何時も診察していただいた医師に任せられることの心強さ、市民病院でこそと今も思っています。
- ・ 改革プランでも指摘されているように高齢化が理由の一つです。妻木町でも65歳以上の住民が多くなりました。誤嚥、骨折等で今後、救急搬送される65歳以上の住民は増えると考えられます。一刻を争う救急搬送で、市内に受け入れ態勢のある病院がないのは市民として何かあった時に不安です。
- ・ 私の義父母は、95歳、96歳で、高井病院と土岐総合病院に大変お世話になりました。信頼できる先生に安心して診ていただき、2人とも天寿を全うしました。私たち家族も、どんなにか力強く支えてくれた病院であったか感謝でいっぱいです。
- ・ 高齢者が増える時代に、移動手段が困難になることを理解していますか？もっと市民の立場に立って市政を動かして下さい。
- ・ 気になるのは生活(買い物、通院)のため車を使っていた高齢ドライバーが、免許返納になった時のことです。救急搬送された家族を見舞うため、病院にいきたくても妻木町は土岐市駅行きのバスは1日2本しかありません。さらにバスだけで瑞浪市に行くには乗り継ぎが必要です。また、退院後の通院も車がなければ不便です。
- ・ 総合病院ができてからずっと通院している患者には、なくてはならない病院です。特に、複数科に通院し、年老いてきた今、他の病院に通院することは不安です。

＜いただいたご意見＞

14

土岐市立総合病院は、地域で安心して暮らすために必要な病院である。なくしてはいけない。

＜主なご意見＞

- ・ 当病院は設立の趣旨からいってもなくてはならぬ施設です。
- ・ 万難を排してでもその存続を望むものです。患者として切望するものです。
- ・ 市民病院は誰でもまんべんなく患者を受け入れてくれるから、地域にとってなくてはならない存在だと思います。
- ・ 土岐市立総合病院だから誰でも安心して受診、入院ができるのではないのでしょうか。
- ・ 土岐市の基幹病院が必要なため、存続を強く希望する。
- ・ 市立総合病院が東濃厚生病院に吸収合併されることは反対です。総合病院は市民の命と健康を守る大切な病院です。地域の公的総合病院をなくさないでください。お願いします。
- ・ 土岐総合病院を是非残して欲しい。
- ・ 市内に在住の限り、無くなるのは困りますのでよろしくお願いいたします。
- ・ 土岐市民病院には他にない高度な医療機械設備も広い土地等、利点も沢山あります。どうか守ってください。
- ・ 土岐市総合病院に関わっている過去現在の方々にも英知をいただき、病院を必ず存続させて下さい。
- ・ 土岐市で安心して暮らすためには、病院は欠かせません。市民の健康と安全を守るための構想を持ってほしいです。
- ・ 人間生きていくについて病気はあたりまえ。病院も絶対必要な要件。必ず現総合病院は残すべき。
- ・ 土岐市立総合病院をなくさないでください。土岐市の人口くらのほかの市町村でも黒字になるようがんばって経営しています。
- ・ 今まで通り市内にほしいです。
- ・ 総合病院は土岐口にあってほしいです。
- ・ 祖父母や親類の者(他県住まい)まで助けて頂きました。総合病院は私にとって誇りでした。
- ・ 子供を育てている親としては、特に必要な病院です。
- ・ 小さい子供がいるので、近くにある病院が無いと困る。先日、子供が頭をけがした時、診てもらいとても助かりました。
- ・ 市役所、病院、市民の知恵を集めて、市民から愛する病院を作ってください。
- ・ 土岐市立総合病院の存続を求めます。土岐市に住んでよかったと思える病院に変えてください。
- ・ 土岐市としての総合病院として続けていただければ。赤字を少しずつ減らして長く経営をしていってください。
- ・ 市民への健康に 医療に関する提言もそして処置もしてくれる総合的病院は続けることを切望です。
- ・ 現在神経内科にかかっており、長く診療していただいているため、病院が移転になり先生の異動もあり変更されると、難病指定の病気のため、最初から説明となると困ります。
- ・ 昨日、総合病院を利用しました。改めて、総合病院が地域(市民)が必要とする医療を提供していると実感しました。
- ・ いずれにしても、土岐市から病院をなくすのは大反対である。
- ・ 土岐市立総合病院は、公立の総合病院として残して欲しい。総合病院の経営面、スタッフの確保等総合病院が様々な課題を抱えていることを市民として理解しています。改革プランも確認しました。しかし、それでも公立の総合病院として土岐市に残してほしいと考えています。
- ・ 高熱、のどの痛み、咳で、地域の医院で受診。扁桃腺炎と診断されて、投薬を受ける。一週間の間に3回受診したけれども、熱が下がらず、まったく改善されない。それで、土岐市総合病院の受診に変更。総合病院の定番のレントゲンと血液検査などの結果、肺炎で、即入院でした。のどが痛く、鼻も詰まる。さて、私は、耳鼻咽喉科なのか、それとも内科を受診すればいいのでしょうか。どちらの科もある総合病院でも、受診申し込み手続きの画面の前で、悩みます。手続きを手伝う女性に相談して決めますが、果たして彼女は、医者なのでしょうか。総合病院なら、どちらの科も同じ建物内ですから、それほどの問題はありません。簡単です。しかし、地域の医院なら、2か所。回るのは大変です。
- ・ 自宅療養では、治るものも治らないという事もあるでしょうが、完治するまでには、長い時間が、かかることもあります。入院して効率良く治療し、短期で完治すれば、費用的にも合理的なこともあるはず。何よりも、患者にとって、治療に専念できる環境を得ることは、大きなメリットです。
- ・ 私と夫の2人がかかっています。なくなったらこまります。これからもみんなでがんばって病院を盛り上げていきましょう。

＜いただいたご意見＞

15

指定管理先が厚生連ありきであることはおかしいのではないか。公募すべきではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 仮に指定管理制にしても、どうして公募しないのかわかりません。相手方がいないとのことですが、やりもしないうちにそう決めるのもどうかと思います。
- ・ 公募条件を明確にすることによって、要求される医療がはっきりします。また2者があれば競争原理も働きます。
- ・ 公募で当初の条件を明確にしておく必要があると考えます。
- ・ 指定管理者が東濃厚生病院ありきでは理解できない。全国には、多くの医療法人があり、公募すれば手をあげる病院は複数あると思われる。また、病院を全部買いたいという企業もあるようだ。
- ・ JA岐阜県厚生連を指定管理者にしない選択肢を市長は持っていますか？
- ・ 指定管理導入、ましてJA岐阜厚生連ありきのような結論は、到底理解できない。今回の案の先には、市民医療の先細りしか見えてこない。
- ・ 病院を購入してもよいとの企業があったなら、市はどのようにかんがえているのか。
- ・ 東濃厚生病院との指定管理ありきの話には納得できない。たとえ指定管理になったとしても、医師の確保は出来ない。指定管理制度にするならば、なぜ公募しないのか。

＜いただいたご意見＞

16

一度指定管理に出すと元に戻ることはできない。指定管理化には、万が一不都合なことが生じた際に容易に契約の変更が利かないことや、意見や要望が伝わりにくくなるなどのリスクがあるのでは。

＜主なご意見＞

- ・ JA岐阜県厚生連を指定管理者として市立総合病院の経営を委ねても土岐市の財政負担が軽減される保証はない。
- ・ 病院事業の再編・ネットワーク化だとして土岐市民や瑞浪市民にとって不都合なことが生じる恐れがあるとき、土岐市にそれを中止・変更させる権限はありますか？それによって新たな財政負担が生じるリスクはありませんか？
- ・ JA岐阜県厚生連が指定管理者を辞退するリスクはありませんか？
- ・ 市立総合病院の経営を他者に委ねた場合には、市民の公立病院事業に対する意見や要望を、市民の命と健康を守る事業に対する要望や意見を吸い上げる最大の窓口を失うことになります。
- ・ JA岐阜県厚生連の運営する病院の経営状況をくわしく把握していますか？
- ・ 市立病院の運営は「箱もの」と呼ばれる施設の運営とは全く異質のものであり、「民間の手法を取り入れて経営の改善を図ればよい」だけではありません。
- ・ いったん無くすと、あとでなかなか作るのは困難。今続行しないとあとで難しい。
- ・ 赤字経営が続いていることは承知していますが、市民、とりわけ高齢者や子育て世帯にとって、設備の整った総合病院が身近にあってほしいという願いは切実なものです。指定管理者制度を経過措置的に利用した後、民間に譲り渡してしまえば、後戻りはできないことになります。
- ・ 働く医師には、大病院では働きたくないという人が多くいます。逆に条件さえよければ、中小病院のほうがよいと考える人もいます。1病院化になれば、医師確保ができる確約もありません。医師確保のポイントは、働き甲斐です。
- ・ いったん決定すれば、1社独占です。協議事項は不明瞭になりがちな紳士協定では、不都合になればずらずと変更を余儀なくされていく気がします。
- ・ 市長はごみ収集を例に出していましたが、ごみ収集は、別の業者に変更することも可能ですが、病院経営の経営者の変更は容易ではありません。
- ・ 「統合するまでの間、指定管理制度を活用して公立病院としての権限を維持したまま民間に委ねる」について、指定管理制度は、統廃合ではありませんが、医師には東濃厚生病院の経営方針が気に入っている人、また土岐市立総合病院の経営が気に入っている人、それぞれいると思います。指定管理制度になれば、どちらか一方の経営方針だけになってしまうので、嫌気がさして開業医に転身する事態もありうるかと思えます。病院ごとで得手不得手があっても、片方の病院が飛び抜けて優れているというわけではなく、本当に導入する意味があるのか疑問です。
- ・ 指定管理制度になって医師の充足は担保されるのかとの問いに、担保されていないと答えてみえます。それなのにどうして強行しようとするのかお聞きしたいです。
- ・ 病院は改革していく必要がありますが、あえて指定管理制度を採用する必要はあるでしょうか。

＜いただいたご意見＞

17

市は、総合病院の現状課題、指定管理化の議論等について、もっと市民に情報を開示し、積極的に説明を行うべきではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 現在の総合病院の現状、病床数、必要な施設、人員確保など、市民に説明してください。
- ・ 病院形態の変更については、土岐市民に十分知らされてなく、市民の理解もなく内容の変更は認められない。
- ・ 市はしっかりと情報公開して現場(市民)の声を真摯に聴くということが大事だと思います。
- ・ 「総合病院が赤字だから」が最大の理由で再編ということですが「赤字」の内容について、詳細な分析を市民に示してほしい。
- ・ 市で出された膨大な資料一通り目を通しました。これをどれだけの市民が見ることができたでしょうか。これでは市民無視の再編と言われても過言ではありません。
- ・ 統合(1病院化)はきまったことなのか。どこでどう決まったか誰でも不振に思うでしょう。
- ・ 行政はもう少し関連する情報を広く公開してほしいと思います。
- ・ 現在の総合病院についての実情がよくわかりません。その内実について説明が欲しい。その内実について、東濃厚生病院への吸収合併することへのメリット、デメリット、他の地域でのケースなど詳細な資料を市民に提示して欲しい。
- ・ 多くの人の意見では病院経営が赤字だからやむを得ないと言われていますが、土岐広報に具体的な数値を示し掲載してください。
- ・ 住民がまだ真実を知っていない検討状況公開十分でない。信頼できない市民の多くは不安である。理解していない。そもそも統合、東濃厚生 これが市民の為であるか。市民のものだ「土岐総合病院」地域医療の大切さを知る。公的総合病院を存続させる。市は市民の為に生きがい研究をすること。人間性「考え方」だ。
- ・ 現在の地に至る経過から見て、市民の医療・命・健康にきわめて高い関心がある中で、この問題を市民に一切知らせず、専門家会議、市民会議で「事、足れり」とする姿勢は到底許されるものではありません。
- ・ 公開が困難なものは除いたとしても、市民の力(それを引き出すのは市の役割)に依拠して、現状とその解決の方向性をしっかりと説明して下さい。
- ・ 市は、「低レベル」の市民に対してそれに見合った対応をしたら、それは市が低レベルであることを示すものです。一定の知性を保持し、土岐市を住みよい街にしたいという心豊かな感性を持った市民を目指して市は最大の努力をするべきです。具体的に言えば、町内会、区会、老人会、そして市の様々なボランティア団体等に、「これでもか、これでもか」というくらいのことこと説明する覚悟を持っていただきたい。その努力は、多数の市民を巻き込んで地域包括支援システムの豊かな充実につながります。
- ・ 市民に対する従来型の本件に対する説明では(広報等)不十分です。ある意味未熟な市民はそれなりにいます。しかしそれらの市民にとことん説明し、それらの方が市政の在り方と自分たちの関わり方に一歩でも二歩でも前に進むようになることが大事ではないでしょうか。
- ・ 高齢者に必要な病床数、介護に必要な病床数、介護に必要な施設要員確保の見通しを市民に説明してください。
- ・ 市民を信じ何故対策プランの相談、意見を聞いてこなかったのか。常滑半田両市民病院は市民も多数参加、TVでも公開された。一病院化前に市民に相談すべきことであつた。納税者は市民であり、市民に対し市長は説明義務があつたはずだ。
- ・ 市民は、これまで行政・議員も含め、市民に公開せず、内輪で「今後は厚生連と指定管理の形態を推進しながら瑞浪市・土岐市の圏内で一病院化する」との展望で合意など「本末転倒」の格言そのもので「圧倒的市民」はこのプランの結論を認めた意思表示をした形跡もないことは明らかです。
- ・ 市民の命と健康を守るために市民の税金を使っていいかと市民に問いかけてみてください。それは市民にとっていいことであり必要なことだとしっかりと説明し理解を求める努力をください。
- ・ 土岐市の医療行政の在り方について市民には事前に経営の実態、現状、将来プランの説明を全くせず、指定管理者制度を導入した後、二市で一病院にしようとする国家戦略の医療政策に嵌ることなく真に地域住民の線に沿った市民と共に歩む医療行政を推進することに行政は汗を流していただきたい。
- ・ 土岐市民病院の直営か否かで、市側と市民の間で軋轢が出ているが、最初に市が市民には解らないと(議会には報告しているとのこと)何の相談もなく、推し進めたことが、問題になっていると思います。
- ・ (案)の作成経過が、市民の見えないところ、聞こえないところで進められたことに抗議します。

＜いただいたご意見＞

18

市民参加型の話し合いの場を設けて、市と市民が協働で病院問題の議論と検討を行ってはどうか。

＜主なご意見＞

- ・ 大勢の市民の知恵を集めて、市民にも医師にも魅力ある、市民が支える市民のための市立病院をつくりませんか。
- ・ 大切な土岐市の財産市民病院を、市、市民が一緒協働して発展の為に尽くしてほしいものです。
- ・ 「見直し案」を白紙にして、もっと市職員や市民を巻き込んで土岐市の地域医療について議論し、魅力あるビジョンを作してほしいです。
- ・ 例えば「市民検討会」などグループを立ち上げたらどうでしょうか。
- ・ 提案ですが、市の全地域（下石、妻木、駄知等）の代表者（多い方がいい）を募り、市民病院をどうしたら立て直せるか「土岐市民病院検討委員会」を設置し、市と一緒に考えてほしいと思います。要するに市民を土俵に誘い込むのです。その結果出た結論には、市民にも十分責任がありますから今までのように、市と隔たりがなくなると思います。
- ・ もう一度、病院を市民の手に取り返すべきと考えます。名実ともに「土岐市民病院」とすべきです。
- ・ 市民のボランティア活動も投入するなど、市民とともに、経営の将来像を考えましょう。
- ・ 社会保障の根幹のひとつをなす医療を担う総合病院のあり方については、拙速な結論を出すことの内容、市民参加のもとで十分な議論と検討を行うべきである。
- ・ 100年に1度ぐらいの困難で重大な局面にあると思います。これを切り開くのは、最終的に市民の力です。市民が自分たちの健康と医療について考え、市民が誇りを持てる土岐市民として成長する最大の機会だと思います。
- ・ 先ほどの議会で市長は病院問題はテーマ内容が専門的であるので市民に意見を聞いても無理。市民に意見を聞く必要がないと言われましたが、病院問題は市民に意見を聞く市民参加の会を開催することが必要だと思います。
- ・ こうだから無理、大変ではなく、どうしたら利用しやすい病院ができ、私たちのための病院になるのか、市民参加の話し合いの場所をつくることを希望します。
- ・ 子育て中の若い人が土岐市に住んでどんな医療を望んでいるか、回数を重ねて話し合い、総合病院を中心にした医療計画を市民の目に見えるようにしてほしい。

＜いただいたご意見＞

19

専門家の意見だけではなく、直接市民の声を聞く機会を設けて反映させる必要があるのではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 将来、土岐市立総合病院が、東濃厚生病院になり一本化される。土岐市立総合病院は、土岐市・土岐市民の財産であり、もっと土岐市民の声を聞くべきである。住民投票の実施を考えてもよいテーマだと思われる。
- ・ 直接市民の声を聞く機会をたくさん作ってください。病院関係の専門家ではありませんが、現実に通院するのは一般市民です。
- ・ 市民サービスする視点にも欠け、基本的に市民優先で意見を無視せず進めてください。
- ・ 改革プラン、推進委員会の決定は、専門家の意見は聞いても、肝心の市民の意見を聞いていません。公立病院改革プランづくりからやり直しましょう。
- ・ 市民に意見と知恵をくみあげ、市民の為の医療がきちんと提供できる病院を市民は望んでいます。どうぞ努力を惜しまないでください。
- ・ 総合病院を存続する様に市民の皆さんと話し合うことを願います。
- ・ 先に行われた議会報告会からも、今市民が病院問題に関心を寄せています。議員さんも生の声を聴き、これはほっておけないと思われたのではないのでしょうか。
- ・ 市民の命と健康を守る大切な事項を市民不在で進めることに怒り心頭です。
- ・ 再編統合ありきの前のめりは市民不在の市民不信の行政そのものです。どうしたらよいかをもっと議論すべき。
- ・ 患者など一般市民や病院従事職員などが含まれない委員構成は極めて不適切である。そうした中でも最も住民に近い委員である連合自治会長が、第2回委員会の協議結果に賛成しなかった事実を管権者は重く受け止めるべきである。
- ・ 市は市民の地域医療を守るためには何が大切か市政の根本に据えて対応してください。再編統合はもっと市民の声を深く聞き性急なものであってはならないのです。
- ・ 統合問題が、市民の人々の意見をしっかりと汲み取ってもらって、みんなが良かったねと心から思える結果になるよう願っています。
- ・ 基本的に市立総合病院の存続と改革を市民と共に強める必要性を求めます。
- ・ 議会で(報告があったかもしれないが)討論されず、市民には全く知らされず、秘密会議(市民はもちろん、市会議員の傍聴も許さない会議)で結論を導いたとの総務部長の発言がありました。根回しを否定する気はありませんが、結論を出す場には、透明性が求められると思う。
- ・ 市庁舎の建替えと同じか、それ以上病院問題は重要です。なんとなく「市民に相談しても」という不信感が感じられる。
- ・ 「パブリックコメント」として、市民から広く意見を求める態度に対して評価しています。是非次に生かして下さい。
- ・ スケジュールありきでパブリックコメントで形をつくり一病院をすることは許せない。何よりも市税により維持されるとしても地域医療で大切な貢献を果たしてきた総合病院を守ること。市長、行政、市議会は市民のため頑張ってください。
- ・ 形式的にこの度、市民に対し、「パブリックコメント」募集の周知を行い、意見を集約したとするもっとも下劣な推進チームの責任は重く、市民を愚弄する極めて悪質な姿勢と言っても過言ではありません。
- ・ 何よりも土岐総合病院の赤字をどうするのか。何も示されていないにもかかわらず経営見直しをせよと。今まで新聞でしか知らせず今になって意見を聞くこと自体おかしい。
- ・ 市立総合病院の問題点を広く市民に説明し、様々な対案・提案などを提示したうえで多種多様な市民の声を集約する努力を払わず、市長にとって都合のよい流れで(案)が作成されたことは市民を軽視し愚弄するものと抗議します。
- ・ 地域に一か所自分たちの税で成り立つ総合的病院があることはどんなに心強いのか。若い人たちの流出を止め、他から若い層が流入することの魅力の一つはのちにつながる病院である。魅力ある仕事や教育やいろいろあるが若い人の魅力ある街を作るために各年代の市民の声を聴き、行政に反映させるべき。市民を信ずることである。

＜いただいたご意見＞

20

指定管理化を結論付けるためには、もう少し議論をしたほうがよいのではないかと。

＜主なご意見＞

- ・ 土岐総合病院になぜ医者が派遣されてこないのか。内部の噂はよく聞きますが、本質というか、真の理由を追求し公にし、改善してからでも指定管理者制にするのは遅くないのではないのでしょうか。
- ・ 土岐市総合病院の特定疾病治療へ絞り込み、従来の“総合”を省いて現存医療施設を稼働する方向へ土岐市・市内医師会・看護師等の如何方向へ歩むか真摯な面談を望む。
- ・ うわべは指定管理の是非を問うように見せかけ、知らないうちに、厚生連の病院にしてしまうような、＜経営手法としての指定管理制＞を問うより、まず先に、前提の問題について市民公聴会、パブリックコメントを実施していただきたいです。
- ・ 関連資料を見ていてと思いますが、専門委員への意見伺いをした際に出た意見そのものは示されても、意見の根拠となるものが市民に示されません。(例えば、「1病院化しないと医師がこない」など。病院規模がだいたい同じくらいの東濃厚生病院を大きく上回る医師を確保するのは難しいと思いますが、医師がこないということはないでしょう。)根拠を示しながら議論するようにしたほうがよいと考えます。
- ・ 「1病院化」するまでの期間の「土岐市立総合病院をどのように運営していくか」を先に議論してから、経営形態(指定管理等)を議論すべきだったのではないのでしょうか？
- ・ 今年2月の新聞報道で、厚生連との経営一体化が図られそうだと知りましたが、そのずっと前から、厚生連が指定管理者となる方向で話し合われていたことを、今回の資料で初めて知りました。
- ・ 土岐市病院事業改革プラン推進委員会の議事内容を読ませていただきましたが、JA岐阜厚生連を管理者とする指定管理化を結論付けるには議論が不足していると感じております。
- ・ 将来的に再編による整備に莫大な費用が必要になるなら、性急な再編に意味があるのか。
- ・ 第1回の土岐市病院事業改革プラン推進委員会で「400床、1病院化」の方向を結論付けています。これは土岐市と瑞浪市の両市で1つの病院が急性期を担うことになると考えられますが、東濃圏域の地域医療構想との整合性はどのようにお考えでしょうか？議事内容から、東濃3市(多治見、土岐、瑞浪)の問題と考えるのか、東濃中部2市(土岐市、瑞浪市)だけの問題ととらえるかを議論した形跡がみられません。
- ・ 市民が事の重大さを知り始めた今、市は、よりよい方向性を検討し、選択肢を示したうえで広く議論すべきである。
- ・ 土岐市制発足から水野沖三・塚本保夫氏の市長選で新病院建設をめくり、市民を二分した争点の結果、現在の立地に建設され、地域に密着し、親しまれてきた総合病院をいとも簡単に「指定病院」で市民の命、健康が守られ、機能するから対策を急げ！という安易な手法は断じてとるべきではないという意見です。
- ・ 老朽化による修繕は当たり前のこと。それを逆手に「財政的に余裕がない」とは？新庁舎だって建設しているではありませんか。それだって時がたてばお金がかかります。
- ・ 第2回の土岐市病院事業改革プラン推進委員会では「JA岐阜厚生連を管理者とする指定管理化」を結論付けていますが、それ以外の選択肢についての議論が不足していないのでしょうか？
- ・ 「医師不足により救急医療の提供が難しくなる」「医療資源の集約化を図る必要性がある」について、救急医療の医師不足を解決するために、救急に重点を置いた1病院に医師を集約することですが、救急需要が多い時を基準に医師を配置すれば、逆に救急需要が少ない時には医師が遊んでしまい割高。費用を下げようとすれば、医師を少し減らして労働強化するしかなくなってしまう。普段は通常の診療や入院患者の回診をするようにして、急な医師不足には、病院間ネットワークで対応したほうが安上がりで無理のない医療が提供できるのではないのでしょうか。
- ・ 「約400床程度の急性期(高度急性期を含む)回復期病床数が適当(現在供給過剰)で病床整理が必要」について、2病院で約600床から1病院で約400床への変更は、単なる規模縮小ではありません。2018年度の診療報酬改定では、大病院の定義が500床から400床に変更されたので、規模縮小したにも関わらず大病院扱いになってしまいます。この結果、紹介状を持たない初診と、診療所への逆紹介を断った場合の再診料が全診療科で割高になる。('保健医療機関及び保健医療療養担当規則'平成30年厚労省令20号改正:第5条3項)複数診療科がまとまっている土岐市立総合病院や東濃厚生病院は、一度に多数の診療科にかかる必要がある人にとって、交通費が安く済むため、一定の需要があるのですが、初診料・再診料の値上げにより、通院しづらくなる。
- ・ なぜこのような財務内容に陥ったかを調べ、どこに穴が開いていたのかよく精査していただきたい。国の責任か？市の責任又は中の人員の問題か、市民の側からよく理解できない。晴天の霹靂です。
- ・ 県やJA厚生連は一病院化の具体的なプランは何も示していない。400床にするに対し病院の立地やメンテナンス、一病院による赤字や収益の配分はどうなるのか。
- ・ 市政を預かる執行機関・職員は、現場で議員・市民の板挟みで苦勞されていることは想定できますが地方自治を守り、推進する公僕的位置づけを常に持たれ病院の医師、現場職員、患者の声、声なき声に耳を傾け拙速な結論をされることのないよう、ご努力されますようお願いいたします。

＜いただいたご意見＞

21

市(市長)、病院、議会、医師会が、市民のために良い医療を提供するよう、市民のほうを向いて主体的に協力していくべきではないか

＜主なご意見＞

- ・赤字であれば、市議員は10名程にして市の職員のように毎日出勤すること。選挙に出るときは、市民の手になり足になると言うが、当選すると途端に自分の身ばかりを大事にして、市民の声をあまり聞かない。
- ・市長には市民の命と健康を守る責務があります。
- ・私は、この資料は今の面倒な病院経営から解放されたい市政を強く感じました。
- ・土岐市の歴代市長 水野沖三 塚本保夫 大野信彦 各氏は病院設置に多大な誠意と努力で貢献された。今の加藤靖也市長はその意図を踏みにじり存続を危うくする方針は極めて遺憾です。
- ・総合病院の建設時の借金を30年間に渡って返済したと聞いていました。やっと返し終わったと思ったら経営を東濃厚生病院に任せる。
- ・患者を安易に別の病院に放り出した。実際に、姉は、多治見に住んでいるが、通院しやすい土岐総合病院に診てもらっていたが、別の病院に行くように言われ、不便ではあるが、やむなく病院を替えざるを得なかった。親戚の叔母はリハビリに通っていたが、先生が辞めるからと言って、別の病院に行くことになった。経営難と言っている病院が患者を減らす努力をするのは理解できない。
- ・まるで市民に来るなど言わんばかりの通知を配った。あのような通知を出せば、誰も行かなくなる。その後訂正の文章が出たが、訂正をするならばもっと反省と来院を呼びかけるべき。最初の通知で、私の周りでは、病院に行けなくなったと嘆く人が何人かいた。経営改善したいのならば、もっとことばを選べたはずと思う。
- ・本当に利用する市民のほうを考えているのでしょうか。どちらか片方の病院だけになっても、ならなかった方の市民からは、全く遠い不便な通いになります。
- ・役所と病院側との連携、協力、市民のための良い医療を築く姿勢なくしての現状を見る。
- ・土岐市医師会は医師の減やこれからの患者減の対応に便宜的にとどまらないで市民の命と健康をどう守るのかを第一義的に考えてください。
- ・市民の命と健康を守る地域医療について理念がないと働き甲斐がないし医師も来ないです。
- ・新改革プラン策定委員会以後、これまで似たような名前の会議が幾度となく開かれてきました。しかし、病院をよくする意図をもって、職員と一緒に考える会議は一度も開かれなかった。最近になって開かれるようにはなったが、それは通告、説明というようなものです。合併ありきでばかり動いていて、当の病院はどうなってもよい、むしろ赤字になればなるほど合併の機運が高まるだろうから好都合と思われていたのでは、とさえ思います。

＜いただいたご意見＞

22

統合再編は必要。地域医療を守るための時間は残されていないのではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 統合のみしかありえない。赤字の垂れ流しをやめてほしい。
- ・ 経営統合に最速のスピードを必要とする。
- ・ だらだら議論をしている時間は残されていない。
- ・ 閑古鳥が鳴いている市民病院をこれ以上さらし者にしないほしい。
- ・ 市民病院を残していただくため市長さんの決断をお願いします。国からの統合は貴重なあり方です。
- ・ 地域の医療を大切にすること。
- ・ 土岐市における医療のネットワーク化は、充実した医療体制の構築と、治療・健康持管理とそのため経費の合理化、軽減化のために絶対必要なことと考えています。
- ・ 病院に活気が無く、印象だった。経営者等を替えてやってくのは良いと思う。

＜いただいたご意見＞

23

土岐市立総合病院は、地域医療提供の場であると同時に雇用の場でもある。
病院がなくなると、居住人口にも労働人口にも影響があるのではないか。

＜主なご意見＞

- ・ 一病院化により土岐市は更に人口減となるだろう。地域医療は土岐市にとって大きな財産だったのだから。
- ・ 人口減を止め、土岐総合病院の赤字減をするならばまず若い人達が魅力を感じるまちづくりをすべきだ。結婚し子を産み育て安心して生活する為には土岐市の地域医療に欠くことのできない市病院は家族の命を守るために必須である。
- ・ 職員の生活基盤が失われ、退職金支払いにも出費がかさみます。子供を育てていけるだろうか、涙ぐんだ職員の顔を忘れることはできません。
- ・ 公立病院で出来るかわかりませんが、あえて必要とされる病院にすべく、時間外や土日診療を考えるという案はないのでしょうか？必要とされる病院があれば、人口増加にもつながってくる。考え方が悪い方向にばかり向いていると思う。
- ・ 「少子高齢化で人口減少、医療需要減少の見込み」について、高齢化は、医療需要の増大につながる。少子化による需要減は確実にきますが、その前に高齢者が増加するので、目の前の高齢化対策を投げ出すわけにはいかない。医療を充実させることは、子育てを応援する一助となるため、少子化対策のいち方策とされている。なので、将来の少子化予測を理由に、医療を縮小すれば、より一層少子化が進行する。
- ・ 10年前、多治見市民病院が指定管理になった時、職員の1/3が配置転換をした上で多治見市職員(雇用替え)として残り、2/3が退職し、そのうちの半分が指定管理となった病院に新たに雇用されたとうかがっています。地方における病院事業は、その地域の雇用を創出している側面もあり、そこで働く職員の雇用を奪うことは地域の弱体化を加速させることにもつながりかねません。